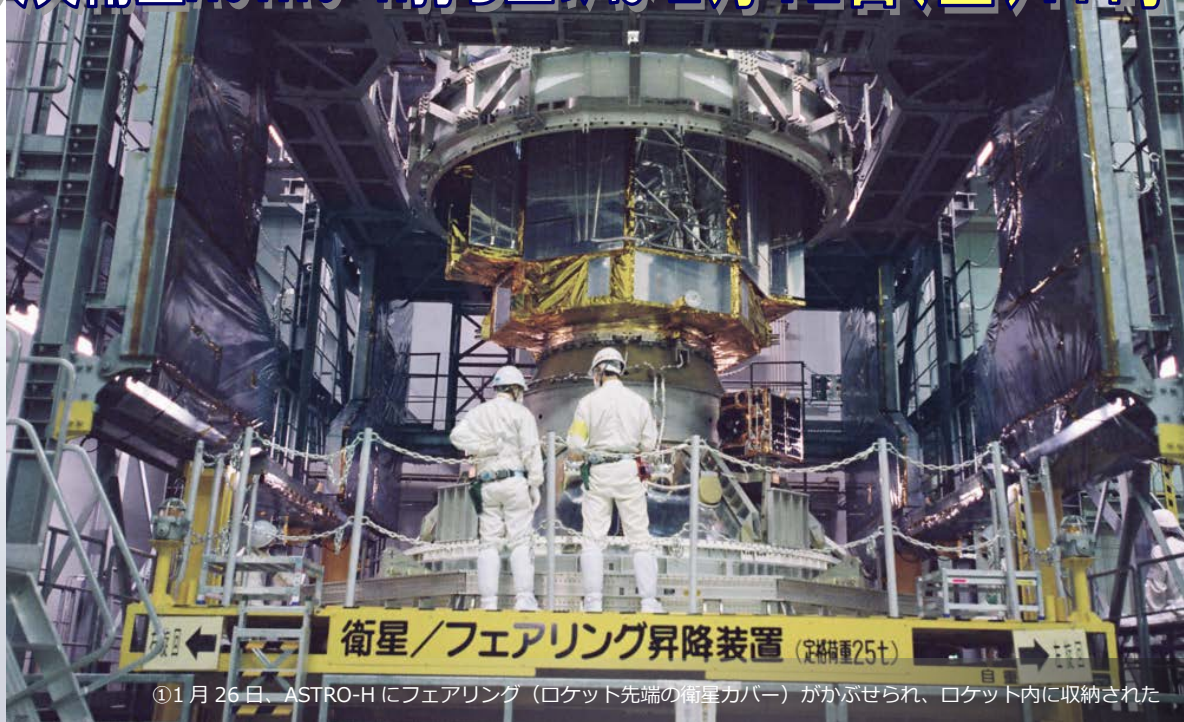


“日本のお家芸”X線天文学の系譜を継ぎ、熱い宇宙の中を観る

X線天文衛星ASTRO-H打ち上げは2月12日(金)17時45分



①1月26日、ASTRO-Hにフェアリング(ロケット先端の衛星カバー)がかぶせられ、ロケット内に収納された

宇宙からのX線を世界最高の分光性能で観測し、激動に満ちた“熱い”宇宙の姿を捉える

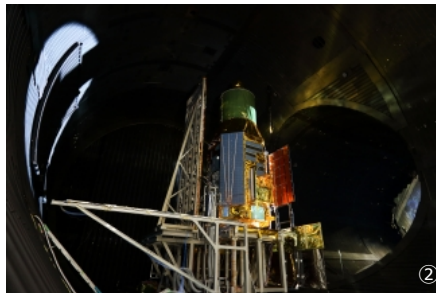
X線天文衛星ASTRO-Hを搭載したH-IIAロケット30号機の打ち上げ予定時刻が、2月12日(金)17時45分に決まりました。

ASTRO-Hはブラックホール、超新星の残がいや銀河団など、X(エックス)線やガンマ線で観測される高温・高エネルギーの天体の研究を通じて、宇宙の構造とその進化の解明を行う天文衛星です。

大規模な国際協力で開発された4種の新たな観測システムが搭載されており、先代の「すざく」にくらべて10倍から100倍も暗い天体の分光観測が可能になります。

JAXAでは同日17時25分から、種子島宇宙センターでの打ち上げの様子をインターネットライブ中継する予定です。またテーブルテレビ局での配信、JAXA見学施設や全国の科学館などでのパブリックビューイングも行われます。

海外の研究機関、国内外の企業が一体となって開発に取り組んだ ASTRO-H

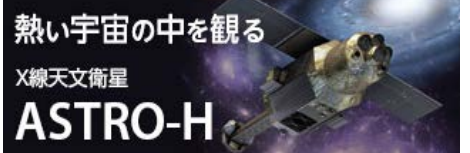


ASTRO-Hプロジェクトは2008年に発足し、2011年に機体の制作が開始されました。JAXAが全体の開発取りまとめを行うなか、衛星の全体・衛星共通系(伸展式光学ベンチを除く)・開発の取りまとめ支援をNEC(日本電気)が担い、伸展式光学ベンチはNIPPI(日本飛行機)が担当しました。観測装置の設計・開発は、JAXAおよび各大学が、海外研究機関や国内外の企業と一緒に取り組み、とくに観測装置のセンサ・電子回路の製造はMHI(三菱重工業)が、また冷凍機および冷却系の開発・製造はSHI(住友重機械工業)が担当しました。熱真空試験、音響試験など、数々の設計検証試験や性能試験を乗り越え、2015年に完成しました。



ASTRO-Hは大規模な国際協力で開発されており、JAXA、NASAをはじめ国内外の大学・研究機関の250名を超えるたくさんの研究者が開発に参加している

さらに詳しく知りたい方はコチラ



ファン!ファン! JAXA ASTRO-H 特設サイト
<http://astro-h.isas.jaxa.jp/diary/>



ASTRO-H 開発日誌

<http://astro-h.isas.jaxa.jp/diary/>

Spacei 宇宙かわら版 2016年2月10日号

※「Spacei」はJAXAとJSFの共同事業です

問い合わせ先: Spacei事務局(一般財団法人日本宇宙フォーラム)

ホームページ: <http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ: https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/

※特に断りのない限り日付は日本時間です。画像の出典: ①~②JAXA

Spacei